

柑橘作経営における規模拡大に関する調査研究

福田 築・富田 従道・松岡 静富
(熊本県農業試験場)

FUKUDA, K. TOMITA, T. and MATUOKA, S.

An Investigation on the enlargement of Citrus Farming Size.

最近、本県柑橘旧産地の積極的な農家を基軸とした行政区域外への規模拡大、つまり、柑橘通勤農家が県下に適地を求め展開しているが、これの統計的な動向と受け入れ側で派生している諸問題ならびに通勤経営の特質、今後の課題などについて明らかにしたい。

1. 調査方法ならびに調査対象

- (1) 統計調査…全県下柑橘栽培市町村に依頼調査
- (2) 受け入れ側の調査…6地域を選定し、関係機関および農家等から聴きとり調査
- (3) 通勤農家群の調査…通勤農家19戸を選定調査
- (4) 簿記々帳…通勤農家4戸を選定し、記帳委託

2. 調査結果の概要

(1) 通勤による柑橘園経営の総体的動向

第1表 通勤農業の総体的動向 (S41. 6. 25)

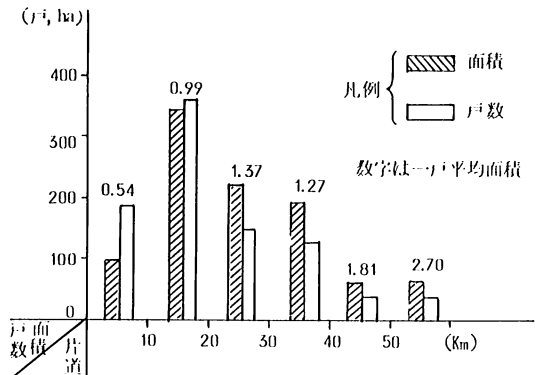
出作地側	受け入れ側	関係戸数	面積	比率	一戸平均
天水町	17 ^戸	477 ^戸	519.51 ^{ha}	50.7 [%]	1.08 ^{ha}
河内芳野村	13	192	250.14	24.4	1.30
田浦町	4	25	29.79	3.1	1.19
その他県内	22	176	99.26	3.6	0.56
県外	5	63	125.0	12.2	2.00
合計	(51 ^戸) 35	953	1,023.5	100.0	1.09

(注) 天水町については41年6月25日以降の調査分も含む。

通勤農業の総体的な動きについてみると第1表のように、天水町、河内芳野村で大部分を占めている。年次的には、35年以降毎年増加し、40年度がピークでありその後は減少している。また、地域的な分布をみると県北が全体の64.5%、宇土半島地域が32.1%、県南3.4%となっている。距離的分布は10~20kmの間が多く10km以内はわずかである。また、距離が遠くなるにつれて、一戸当たりの面積は大きい。(第1図参照)。

(2) 入作により派生する諸問題の事例的観察

1) 降雨による水田などへの土砂流入



第1図 距離的分布

2) 農道は個々の柑橘園を単位にし地域的、全体的計画に欠けている。

3) 品種は入作地側の奨励品種とかならずしも一致せず、例えば、温州と甘夏の混入もある。

4) 果実は、既成産地まで持帰る。損傷、高運搬経費。

(3) 規模拡大の特質

1) 通勤前は0.5ha未満の農家が47%あったが、通勤後は1.0ha以上が73%にふえた。(313戸調査)

2) 既成園が大きい農家程出作園も大きい。しかし、開墾率(出作園/既成園)は既成園が小さい階層が大きい。

3) 品種構成は出作園で早生温州の割合がかなり高い。

4) 出作園が大きい農家が全体の76.3%、従って経営の比重は将来出作園に移行すると思われる。

3. 問題点と今後の課題

1) 新たな開墾については、統計的把握の義務づけ

2) 旧産地と出作側を結ぶ、道路計画

3) 出作園の航空防除体系の基本構想を関係市町村間で確立

4) 流通問題は広域的で政策的な対策

5) 出作園は防寒に充分注意し、寒害による経済的損失の防止。